

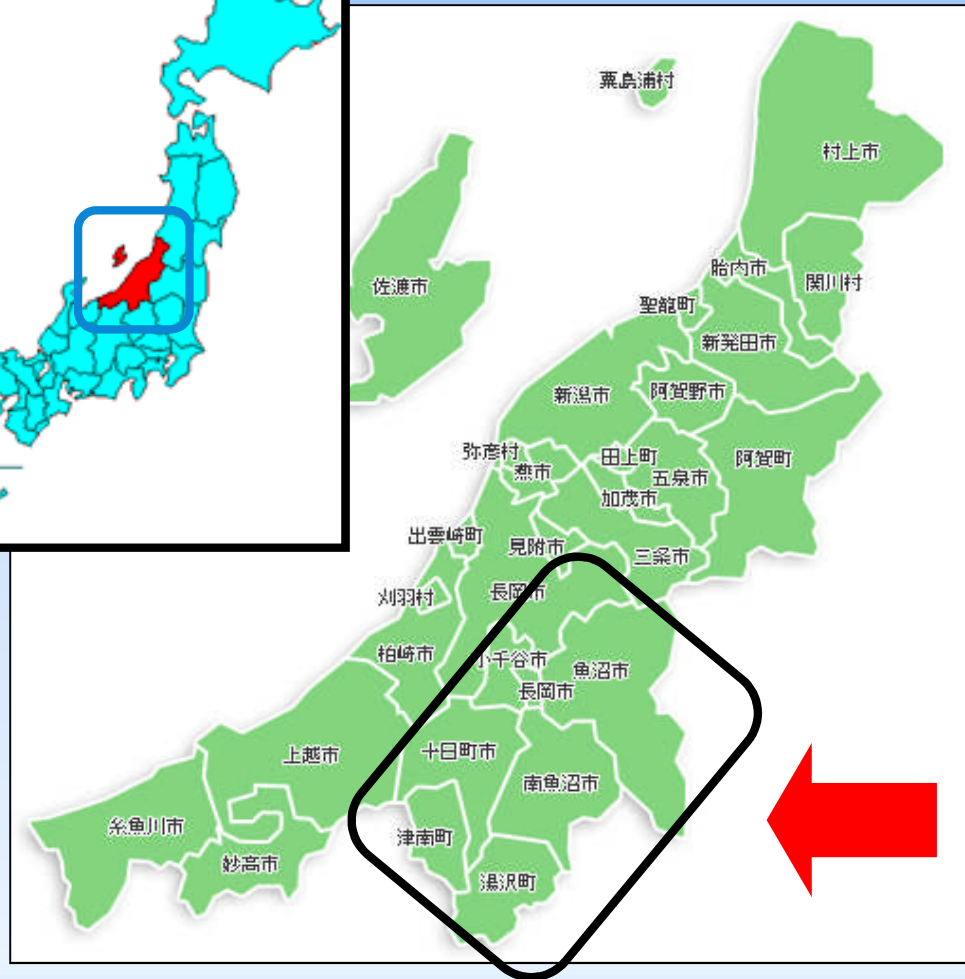
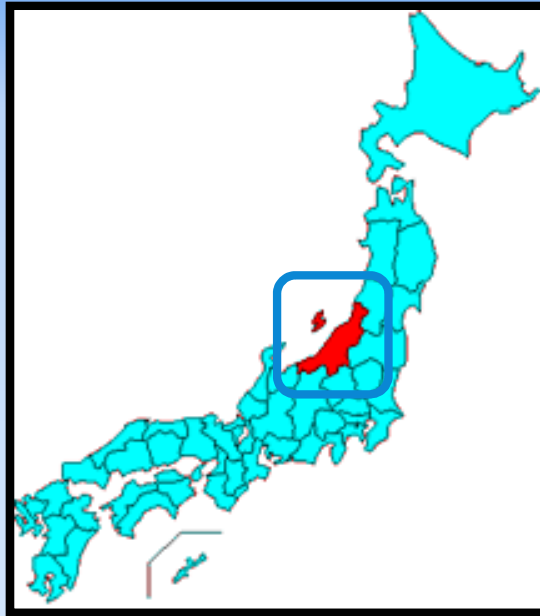
JA北魚沼GAP部会の取組



JA北魚沼GAP部会事務局 JA北魚沼営農指導課



JA北魚沼 (GAP部会事務局) の概要



魚沼産米
5市2町で生産

魚沼産コシヒカリ
全生産量約 70,000t

JA北魚沼取扱量
約 7,000t



～ 風 土 ～

県内でも有数の**豪雪地帯**で、越後三山を背景に鮎漁の盛んな清流**魚野川**や悠々と流れる日本一の大河**信濃川**など、自然に恵まれた**緑豊かな農村地帯**であり、田植え・稲刈り体験や魚沼市から行く尾瀬ルートなど毎年、多くの観光客が訪れています。

魚沼市、長岡市川口地区を合わせた総面積は約1,000km²、耕地面積は約4,000haで、農業は**稲作が中心**です。

日本一と評される「**魚沼産コシヒカリ**」や堀之内の「**ユリ**」栽培が有名です。

また、「**八色すいか**」「**深雪なす**」「**うるい**」「**ふきのとう**」「**タラの芽**」「**モロヘイヤ**」「**えのき茸**」などの特産品も数多くあり、全国に出荷しています。



第3回うおぬま百菜花ん写真コンテスト
最優秀作品賞 八木 利夫 「帰り道で見たユリ」

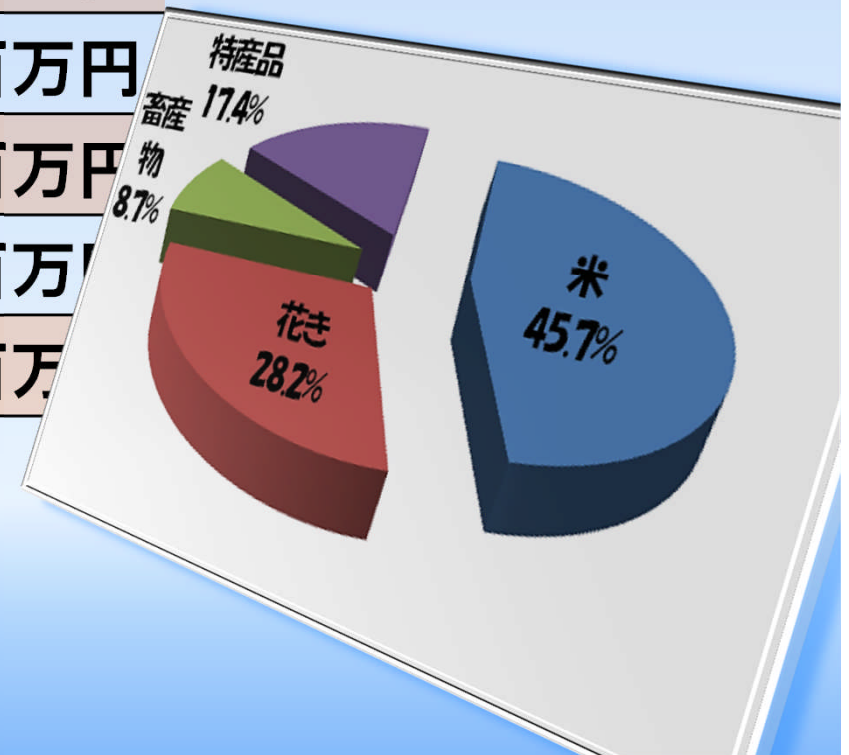


第1回うおぬま百菜花ん写真コンテスト
入賞 荒井 キミ 「真冬 つかの間の時」



～ 事業量 ～

販売品販売高	55 億 14 百万円	
(内訳)	米	25 億 19 百万円
	花き	15 億 55 百万円
	畜産物	4 億 78 百万円
	園芸特産品	9 億 60 百万円
貯金残高	803 億 41 百万円	
貸出金残高	303 億 25 百万円	
共済保有高	4,124 億 12 百万円	
購買品供給高	58 億 50 百万円	



H26. 2. 1現在



～ 取組の例 ～

利雪型米穀低温貯蔵施設 (平成24年8月完成)

- ◆ JAとしては最大級の施設
- ◆ ラックシステムにより集荷区分の細分化。
- ◆ 集荷した北魚沼産コシヒカリは、雪の冷気を利用した低温貯蔵庫に保管。
- ◆ 毎年、1～2月に雪の入れ替えを実施
 - 鮮度・食味保持効果
 - 年間76 t のCO₂削減効果
 - 他産地との差別化

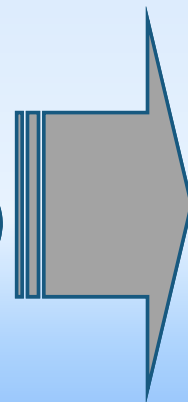


「JA北魚沼」のGAP取組



- ◆ 平成21年度～ 生産者の取り組み点検シート
→ 取組（草刈りの徹底等）の把握
- ◆ 平成22年度～ 生産工程管理点検シート
→ 生産者の取り組み把握＋ 必要最低限の項目
- ◆ 平成24年度～ G-GAP認証取得
→ 1法人 約6ha

より多くの農場で
農作業の安全性向上
etc



団体認証
を検討

団体認証に取り組むにあたり

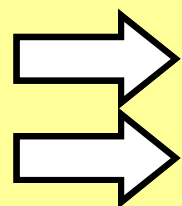


目的

安全な農産物の供給、農作業の安全性向上

ポイント

より多くの農場に参加してもらうために「どんな仕組みにするか」



農場の負担軽減、意欲向上
分かりやすい「仕組み」

- 事務局と農場で「管理点と適合基準」を役割分担し、分かりやすい農場用マニュアルの作成
- 迅速でこまめな情報提供（既存携帯メール情報の活用）
- 推進アイテムの充実
- 十二分な研修会の開催



役割分担（マニュアルの構成）

農場

農場用
管理点と
適合基準

農場用マニュアル（穀物）

事務局で対応できる事項は事務局で対応

事務局

団体事務局用
管理点と
適合基準

事務局用マニュアル（穀物）

事務局用マニュアル（団体管理）



農場用マニュアル

魚沼農業普及指導センター協力の
もと農場用マニュアル（通称「緑ファイル」）を平成24年12月に完成

- 分野別に構成
- 大きな文字
- 横文字などの「単語」は出来る限り使わない
- 地元でしか通じない「単語」でも分かりやすいものは使用

※マニュアルは部外秘





携帯メールの活用

既存の携帯メール稲作情報提供システム（約850名登録）を活用し、研修会案内、書類の提出、注意事項などを部会員に情報提供

※ 基本的に事務局からの全ての連絡は携帯メール

稲作情報

携帯メール会員募集!

タイムリーな稲作情報等を皆様の携帯電話にメール送信させていただくサービスを開始します。是非、ご登録いただき、良食味・高品質生産にご活用ください!

下記の①②のいずれの方法でも「名前」「集落名」を登録して頂ければ登録完了です。

① 携帯電話から登録

登録専用アドレスに「名前」「集落名」を記載しメールを送信してください

作業が省けます
→ 撮影

届いたメールを見るのは結構簡単!
(ボタンを数回押すだけです)

郡営農指導課 025-793-1770

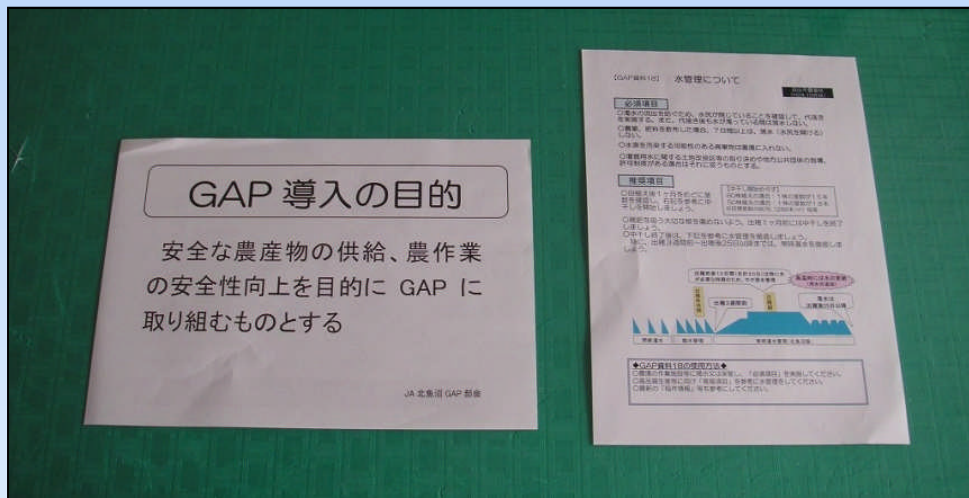
農業普及指導センター

推進アイテムの充実

～（例）共通看板～



JA北魚沼GAP部会オリジナル看板は 事務局で作成



共通的な看板は、魚沼農業 普及指導センターの作成した 「はじめてのGAP」添付資料 を活用





参加農場の募集

平成24年12月 「JA北魚沼GAP部会」発足
併せて、参加農場の募集

約20農場が
参加希望



平成24年12月3日 GAP推進研修会（魚沼農業普及指導センター主催）

GAPに強い関心がある方は少なく「多少は関心ある」「とりあえず勉強してみる」などの農場が大半



農場用研修会

平成24年12月26日、平成25年1月11日 GAPスタート研修会（JA北魚沼主催）



平成25年2月12日、2月27日、3月6日
GAP実践研修会（魚沼農業普及指導センター主催）

関係機関協力のもと、年間10回以上研修会を開催（最初の1年間では20回実施）



指導者研修



JA営農指導員（指導者）
のレベルアップに向け地
区担当営農指導員も指導
者研修会に参加

平成25年3月14日、3月15日
指導者研修会（魚沼農業普及指導センター主催）

**指導者研修会にも
農場が積極的に参加**



平成25年6月20日 指導者研修会（魚沼農業普及指導センター主催）

特徴的な支援



魚沼農業普及
指導センター等
と調整し、バラ
ンスの良い研修
会の開催



魚沼市の協力
による的確な
「ほ場地図
等」の作成

JA北魚沼GAP部会の特徴（参加
農場が多数）を活かし、

- 事務局（JA）主催による出
張講習会（フォークリフト講習会
等）の企画・開催
- 共通的に必要な物品（飛散防
止蛍光灯、防油堤等）の共同発注



平成25年11月6, 7, 8日
フォークリフト講習会（JA北魚沼主催）



内部監査



- 初年度の17農場に対する内部監査は、事務局（JA）に有資格者がいないため外部へ委託
- 外部委託した農場内部監査も研修（勉強）の一環と考え、全内部監査に営農指導員が同行

～事務局（JA）の内部監査体制の整備～

- 平成25年8月にJA北魚沼から5名がJGAP指導員基礎研修を受講（全員合格）
 - ⇒ 平成25年産から農場の内部監査が可能になった（内部監査補佐役）
- 今後は、農場内部監査の能力向上、内部監査実施経験者の増加等による体制強化を図る

取組開始から7ヶ月で初検査 ～平成25年7月～



JA北魚沼GAP部会では、検査も研修（勉強）の一環と考え、多くの農場が検査に同行。



平成25年8月団体認証取得



平成25年9月10日 JGAP団体認証取得報告会

参加農場数 17農場



複数のテレビ、新聞等で紹介

日本農業新聞

米初検
長野・あづ
【長野・あづ】JA
あづは1日、安曇野市
高柏原の北魚沼産米
庫で2019年産米の
検査をした。市内の農
民から「コシヒカリ」
や「あづ」(「あづ」は
3000粒(1000粒×3)
が運び込まれ、全量が
等の評価を受けた。同
JA管内で「あづ」の
生産者同士の検査

登録を受け、今後の取り組みに期待を込
ますJA北魚沼GAP部会のメンバー

**雪室貯蔵米
北魚沼コシヒカリ**

**取
得
JGAP
米ブランド強化**

国内最大規模 17農場が参加

【新潟・北魚沼】北魚沼米のブランド力向上と
地域営農活動の持続的発展に向け、JA北魚沼
は、GAP(農業生産工程管理)部会を設立し、
認証に向けた準備を進めてきた。8月に国内最
大規模となる17農場(172ha)の参加で、JG
AP(日本版農業生産工程管理)の団体認証を受
けた。魚沼市同JA普及倉庫で10日、農場関係
者ら約人が出席し、報告会を行い、今後の認証を
生かした取り組みの実践を確認し合った。

新潟・JA北魚沼

GAPは「工程管理」農場管理の取り組み。回
答への国際展開の考え JAでは、昨年12月に
方を農場現場に導入した AP部会を発足させ、農
もので、倉庫事故などの 事故組合法人などの17農場 熱帯以
問題を未然に防ぐための が参加。17農場とも「魚
沼米」
JAの
物では
8月末
殺菌部
強化を
APに
した。

**生産工程の認証
17農場一斉取得**

JA北魚沼

コシヒカリの輸出視野

JA北魚沼(魚沼市、三浦町)は、農林水産省
が導入を推奨している、
農産物の生産履歴や、種
苗や土、水の安全性、取
扱後の取り扱いについて
一定の基準を満たして
た農産物は、輸出に際し
た農産物の認証の対象と
証書を受け、その生産
された作物の安全・安心
について、消費者から一
定の「お喜び」を期待
している。

取得した17農場の作付
面積は全体で172ha。G
2019年12月に「G
AP部会」を設立し、研
究を進めていく。認証
を得るのに必要な約15
0の項目について、17農
場、普及機関が認証を
取得した。

認証を受けやすいため
め、生産者だけでなく
広範囲にわたる生産者
を除いた項目は、普及機
関がJA北魚沼に委託
わたりやすいため、

JA北魚沼は穀物で国内最多の17農
場でJGAP団体認証を取得した

▲GAP: Good Agricultural
Practices(GAP)「良い農業
慣行」農業生産にかかわる一
般的な生産管理の総称。
生産履歴と関係する水質検査
組合が推進する「グローバルGAP」
P、JGAP、AP部会、日本G
AP部会が認証を推進。第三国の認証
機関が認定しており、2019年3月
末時点で認証農場数は1700施設に
達している。新報管内でJGAPを取得
した20農場は今回の17農場を含む
認証農場。

JA北魚沼は、農産物が自動的に認証
したJGAP認定農場だ。

日本経済新聞

家電に中国仕様

ツインバード、販売強化
空気清浄器など

家電販売など大手が、現地の販路拡大を、この会社と代理店契約時
るツインバード工業、進め、
中国での製品販売を強化
する。これまで日本国内
で販売する家電製品を、
たが、現地のトレンドや
売れ筋状況に合わせて企
業を分析し、ついで販
路を拡大する。現在の代理店を3月に
試験的に相次いで、
百貨店などへの展開が
進むと見られる。

東京電力物産が、
力発電所の維持業務所長
は12日の記者会見で、フ
ィルター付き「バンド」排
煙設備について、
新報の泉田裕彰記者が
中越地域の経験から基
礎部分を連携と一体化す

基礎分離望ま

待機児童
厚生労働省が12日
した。4月1日時点で、
りませぬ。2019年
4月1日時点で、
新報内の待機児童

かほちや 特産に育て
小千谷、油脂多い品種増産

うおぬま百菜花ん（JA直売所） でもJGAP認証米を販売



農場の意欲向上

取組の強化・拡大



- 平成25年8月にJA北魚沼から5名がJGAP指導員基礎研修合格（農場の内部監査体制整備）
- 事務局、農場が協力して視察受け入れ対応
→ 視察受け入れも研修（勉強）の一環
- 新規JA北魚沼GAP部会参加希望者等への指導による認証拡大

平成25年3月に5農場追加認証取得
→ JA北魚沼GAP部会は**22農場**に拡大

平成25年3月に**精米工程**の認証取得

平成26年7月現在、複数の農場が新規参加を希望し、取組を開始

更なる発展に向け



- 更なるJA北魚沼GAP部会への参加農場の拡大
- JA北魚沼GAP部会参加農場のレベル底上げ(取組格差の縮小)
- JA北魚沼GAP部会参加農場同士の協力体制、情報共有の強化
- 地域全体へのGAP取組みの波及(農作業安全等の拡大)
- GAP認証米の販売拡大





第3回うおぬま百菜花ん写真コンテスト 魚沼絶景賞 星 正太郎 「水鏡」

ご清聴ありがとうございました